

インターフェアランス/プライオリティー：ルール

1. インターフェアランス・ルール

- A) 波のインサイドポジションを獲得した選手は、その波を乗り終えるまで絶対的な優先権を得ることになる。このとき対戦相手の選手が優先権を持つ選手の得点を妨げたと大多数のジャッジが判断した時は、インターフェアランスがコールされる。
- B) 優先権を有する選手の前に他の選手が乗ってしまった場合でも、優先権を有する選手の得点を妨げる以前にプルアウト等で直ちに演技を中止すればインターフェアランスとは見なさない。これには過度なハスリング、リーシュコードを引っ張る行為、セクションのブレイクダウンも含まれる。
- C) マキシマムウエーブを乗り終えた選手が海の中に留まり、次の行為を行った際にはインターフェアランスが科せられる。
 - 1) 明らかに他の選手の乗る波を奪った場合
 - 2) パドリングやポジショニングなどで他の選手を妨害した場合

2. 4メン、3メンそしてプライオリティー無しの一オン・ワン制における優先権

波の所有権と優先権はコンテスト会場の状況により決定され、以下のカテゴリーに分類される。しかし、基本的にはジャッジの責任でその波のライト、レフトのどちらかが優先かを判断し、それを基準にどちらの選手がインサイドポジションを獲得したかを決定する。

例) もしテイクオフする最初のポイントでライトかレフトのどちらの波が優勢か定まらない場合は先にその波に乗り、明確なターンを決めた選手にその波の優先権がヘッドジャッジにより与えられる。

a) ポイントブレイク

波が一方向にしかブレイクしない場合は、インサイドポジションにいる選手に絶対的な優先権が与えられる。

b) リーフまたはビーチブレイク（ワンピークシチュエーション）

ライトとレフト両方向にブレイクする明確なピークが1つある時で、テイクオフする最初のポイントでライトかレフトのどちらの波が優勢か定まらない場合は、先にその波に乗り、明確なターンを決めた選手にその波の優先権が与えられる。

次の選手はペナルティーを受けずに反対側方向へのライディングすることができるが、先に優先権を

得た選手の妨害となってははいけない。

c) リーフまたはビーチブレイク（マルチピークシチュエーション）

不規則なピークがいくつもあり、定まらない場合には各波により優先権が異なる。

1) 1つのウネリで、互いに十分離れたところにある2つのピークが、結局は何処かのポイントで1つに交わってしまう場合がある。2人の選手が別々のピークからライドした際、最初にテイクオフした選手にその波の優先権が与えられ、その後、最初にテイクオフした選手は、最初にテイクオフした選手を妨げる前にライドを辞めて進路を譲らなくてはならない。

2) 2人の選手が別々のピークから同時にテイクオフした場合

* 両選手が接触を避け進路を譲れば妨害がない為、双方にペナルティー対象外となる。

* 両選手が接触または相手に対し妨害をした場合、ジャッジはその際、仕掛けた一方または、両方の選手に対してペナルティーを科す

* いずれの選手も進路を譲らない場合には、両選手にペナルティーが科せられダブルインターフェアランスがコールされ。両選手のその波のスコアは0となりセカンドベストスコア-は半分となる。

3. プライオリティー付きワン・オン・ワン制における優先権

1) ワン・オン・ワンの場合、プライオリティーシステムにより波の所有権が決定される。プライオリティーを得た選手は、波のどちらの方向へ進むことを選択しても絶対的な優先権を持つ。もう一方の選手はどちらの方向へもパドルまたはライディングし、スコアを得ることはできるが、プライオリティーを持った選手のライディングを妨げてはならない。

a) もしプライオリティーを持たない選手が上記のルールに従わない場合はプライオリティーインターフェアランスがコールされる。

b) もしインターフェアランス・ペナルティーを自ら招いた場合は、その選手はプライオリティーを喪失する。

4. 優先権基準

優先権基準の選択はヘッドジャッジ、ツアージャッジらの大多数の意見で決定する。

5. プライオリティー・ルール（ワン・オン・ワン）

a) ワン・オンワンヒートではプライオリティーの適用が義務づけられている。

b) ヘッドジャッジはプライオリティーを表すために選手らのゼッケンの色に応じてプライオリティーカラーを表示させなければならない。

- c) プライオリティーカラーは、ジャッジブースより目視でき選手からも目視できる位置に設置されていなければならない。
- d) マークバイ式プライオリティーシステムの場合は、波のブレイクポジションより少し沖に設置され選手は優先権を獲得するためにそのマークバイを旋回しなければならない。
- e) プライオリティーは選手が波に乗った時、または波に乗ろうとし明らかに乗ろうとした時点で喪失
- f) ヘッドジャッジによりプライオリティー権利を得た選手のゼッケンと同色のカラーを掲げる事により表示される。
- g) どちらの選手もプライオリティーを有さない場合には、カラーは掲げられず標準のインターフェアランスルールにより優先権が決定される。

6. アロケーション・プライオリティー（4名/複数）

- a) アロケーションプライオリティーはプライマリー・テイクオフ・ゾーンに最初に到達した選手に与えられる。
- b) ヒートスタート時に各選手にはプライオリティーはなく、インターフェアランスルールにて開始され、最初にライドした選手に4番目のプライオリティーが与えられ、順に繰り上げされていく。

例、赤が最初にライドし4番目のプライオリティーを獲得、黄、白、緑等はプライオリティーを保持せず波にアプローチもしくは、テイクオフした時点で4番目にプライオリティーを獲得し順番に繰り上げていく

- c) プライオリティーを持たない選手はインターフェアランスルールに基づき、波の所有権が決定される。
- d) どのような状況においても、もしプライオリティーシステムが機能していない事により、議論が起きた際はヘッドジャッジ、コンテストディレクター選手代表により仲裁される。

7. スネーキング

- a) テイクオフする事が出来る波の所有権を確立した選手にその波でライディングを継続する権利がある。これは他の選手がより奥から続いてテイクオフしたとしても変わることは無い。
- b) ジャッジは1番目の選手について、たとえもう一方の選手の前にいたとしてもその波の優先権を有しているため、ペナルティーを科さない。
- c) ジャッジの判断により、後続の選手（スネーキングした選手）が有する選手の優先権を有する選手にプルアウトさせたり、その波に乗らせなかったりした場合には、後続の選手に対し、たとえペナルティーが科せられた時点で優先権を持つ選手の後方に移動したとしても、インターフェアランスコールされる。
- d) 上記のケースは、複数人制のヒートまたはプライオリティー無しのワン・オン・ワン制の場合のみ適用される。

8. プライオリティーパネル

- a) プライオリティーパネルは、海から見て左側から第 1、第 2、第 3、第 4 プライオリティーの表示をする。

第 1 第 2 第 3 第 4 プライオリティーパネルに優先権保持者の順番に
ゼッケンカラーと同じ色を表示する。

- b) プライオリティーパネル表示は、ヘッドジャッジにより表示担当者へ指示をする。
c) プライオリティーパネル担当者に、ヘッドジャッジ、コンテストディレクターがプライオリティールール
の説明をしっかりと行う義務がある。
d) ワン・オン・ワンの場合は、上記の第 1、第 2 で同等に行う。

9. エキストラルウエーブ

- a) 妨害を受けた選手には、エキストラルウエーブが与えられ定められた時間内であれば、マキシマム
ウエーブに 1 本追加して波に乗る事ができる。
b) エキストラルウエーブやヒート時間の順延はヘッドジャッジにより決定され、それは水中カメラマンや
海上警備隊、その他の外部からの妨害による場合にも適用される。
c) インターフェアランス・ペナルティーを 2 回以上科せられた選手は直ちにコンペティションエリアから
立ち去らなければならない。

以上